

---

# 2016 年度 事業報告書

---

特定非営利活動法人  
アントレプレナーシッ  
プ開発センター

---

〒604-0866  
京都市中京区西方寺町 160-2  
船越メディカルビル 3F  
TEL:075-468-8907 FAX:075-468-8908

---

アントレプレナーシップ開発センターが目指すもの:

# アントレプレナーシップ溢れる人材育成と社会の実現

## 目次

はじめに.....	1
2016年度 活動報告 .....	2
2016年度 決算報告 .....	2

## はじめに

皆様のご支援のもと、2016 年度の事業を予定通り終了し、ここに報告させていただきます。

まず、2014 年から行っております「日本とインドネシアの若手ソーシャルリーダー育成・交流事業：Gerakan Mari Berbagi(共に分かち合おう)プログラム」では、3月24日に来日したインドネシア人の研修生が2015年の夏にジョグジャカルタの研修でお世話になった日本人学生の家滞りしながら日本企業等で研修し、4月18日に帰国しました。来日中は、インドネシアの研修生と日本人学生の合同研修などを通じて友好を深めながら、新しい日本人の参加メンバーも加え、8月末から9月にかけてインドネシアで開催された現地の研修生選抜研修 Youth Adventure & Youth Leaders Forum に参加し、大いに刺激を受けて帰国いたしました。その後、事前学習や資金調達活動などを経て、今年2月25日から4名の日本人学生が、インドネシア・バリ島東部の Selat 村にて一般家庭に滞在しながら、小・中・高校等で研修生として授業を行ったり、村の人への環境ワークショップを実施したりしました。この間、来日したインドネシアの研修生達を中心になって日本人学生の授業の通訳などの支援を行ってくれ、参加した若者達や国を超えた友情を築いておりました。

また、2004年から始めました高校生国際競技「Global Enterprise Challenge (GEC)」は、主催者が急逝されたことで、世界大会の運営や日程変更などを余儀なくされましたが、国内予選には、全国から33校29チームがエントリーし、世界大会に出場した3チームのうち日本の開成高等学校が1位、同志社国際高等学校が2位と大変健闘いたしました。そして、第16回目の「ユース・エンタプライズ トレードフェア」は、全国各地から30チーム（小学生3チーム、中学生1チーム、大学生26チーム）が参加し、展示&販売、プレゼンやミニ・ワークショップを通じて、普段オンラインでつながっている学校と互いに交流し、学び合うことができました。そして、今年は初めて知事賞を小学校チームの亀岡市立西別院小学校が受賞しました。文部科学省の「小・中学校等における起業体験推進事業」では、京都市・京都府（亀岡市・京丹波町）と連携し、小学校2校と中学校2校にてモデル授業の実施を支援いたしました。2018年には参加校が増える予定で、学校現場でも徐々にアントレプレナーシップを培うことの重要性を理解する指導者が増えていると感じています。

なお、今年は、当センターが本事業を開始してから20年目の年となり、いくつか記念事業として地域と密接に関わる活動や新しい取り組みにも挑戦して行きたいと考えております。皆様にも、お時間が許すようでしたらご参画頂けたらと存じます。

最後に、引き続き、当センターの活動へのご理解とご支援を賜りますことをお願いして、2016年度の応援のお礼と報告の挨拶とさせていただきます。

平成29年5月

特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター  
理事長 原田紀久子

## 1. 事業理解を進めるための調査・研究・情報発信事業

### ➤ HP、ブログ、Facebook やメールマガジンでの情報発信

随時 HP やブログや Facebook に活動情報や報告を掲載。また、毎月 25 日に約 6,000 人にメールマガジンを配信。

HP アドレス : <http://www.entreplanet.org/>

ブログアドレス : <http://blog.canpan.info/entreplanet/>

Facebook アドレス : <https://www.facebook.com/entreplanet>

## 2. 実践を後押しするための教材・教育プログラム開発や導入支援事業

### ➤ 京都起業家教育推進事業「ユースチャレンジ」プロジェクト

本事業は、平成 27 年度経済産業省の「起業家教育普及促進事業」の委託を受けて昨年度開始し、今年度は、文部科学省の「小・中学校等における起業体験推進事業」の委託にて、京都府（亀岡市・京丹波町）と京都市と連携し、小学校 2 校と中学校 2 校でモデル授業を行いました。

この事業では、小中学校において起業家教育のモデル授業を実施することにより、「起業家精神（チャレンジ精神、創造性、探究心等）」や「起業家的資質・能力（情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等）」を有する人材育成の実践ノウハウを広く周知するとともに、地域に根ざし継続する起業家教育の実践モデルを構築することを目指しています。

### <実施校>

#### 1) 京都市立大宅小学校（6 年生 4 クラス）約 30 時間

大宅小学校では、実施において、最初に指導者向けの研修を行い、総合的な学習の時間を活用して児童にも身近な環境をテーマに、エコ商品を開発する活動内容を進めることにしました。授業では、児童達が模擬会社を設立後、認定 NPO 法人環境市民の方に環境に優しい商品やそれらの広報の仕方について指導いただき、自分達で手作りできるエコ商品考え、製作しました。制作した商品は、仮装企業の実践見本市「ユース エンタプライズ トレードフェア」にて代表チームが出展し、取組内容について発表したり、チラシを配布して商品を紹介したりして、完売することができました。最終的には、保護者参観日に全クラス一斉に発表会を行い、互いの学びを共有しました。アンケート結果では、9 割以上の児童が「自分が学びたい・または習得したいと考えていた知識や力がついた」と回答しており、特に伸びた力として 8



割以上が「人と協力して働く力」をあげています。続いて半数以上の児童が「アイデアを形にする力」を選び、4 割が「新しい商品などを発想・創造する力」「問題や課題を発見する力」「問題や課題を解決する力」「人をサポートする力（サポーターシップ）」「新しいことに挑戦するチャレンジ精神」と回答しています。このような活動に対して、84%の児童が「将来自分の職業を考える上で役立つ」「将来自分で新しい会社（仕事）を創りだすのに役立つ」と回答し、90%の児童が「仕事を通じて社会に貢献する力をつけるのに役立つ」と考えていました。

## 2) 亀岡市立西別院小学校（4年～6年生）約60時間



西別院小学校では、昨年度から継続してこの起業家推進事業を、取組み時間を大幅に増やし、また、地域の人達の関わりを密にするなかで実施しました。生徒達は、町の強みを生かした商品である竹炭や天日干しの米を、地域の専門家の指導のもとで生産活動を行い、西別院フェスティバルやトレードフェアで販売、発表を行い、学習の成果が評価され、トレードフェアでは知事賞を受賞しました。本活動から、生徒達は「人と一緒に働く力」「コミュニケーション力」「新しい商品などを発想・創造する力」などを培い、「仕事を通じて社会に貢献する力」が身についたととらえています。今後は、過疎地という立地を強みとしてとらえ、徐々に教員等の大人の支援を低めて児童達が主体的に取り組む活動に発展させる予定です。



を

## 3) 京都市立修学院中学校（1年生約20時間、2年生約35時間、各5クラス）

昨年度に引き続き、1年生は商店街調査と提言活動、2年生は商品製作と商店街でのバザー開催を行い、その事前学習として、商店街の運営や魅力ある店舗づくりなどに詳しい外部講師から話を聞いて、自分たちの活動の参考にしました。



授業の前後調査からは、クラスにより差異はあるものの、起業家的行動能力の向上に大きな変化はなく、1年生では、起業への興味・関心で、全く興味のない生徒が減った反面、「ぜひ起業に挑戦してみたい」という生徒数も減少する結果となりました。2年生では、「自分でやってみたい」という生徒の増加と「全く関心がない」という生徒の増加がほぼ同数となり、今回の体験活動で、みずから事業を興すことへの興味が喚起されたとは言い難い結果となっています。

この要因として、修学院中学校の場合は、1・2年生ともに「新しい事業を興す」という視点よりも、地域の賑わいと密接に関わる商店街の活性化をテーマに調査や商売体験を行っており、自分達のアイデア商品を制作して販売するものの、起業家の視点が入るのが外部講師の講演時に限られている点が考えら、今後の検討課題となりました。



## 4) 京丹波町立和知中学校（1年生2時間、2年生2時間、各1クラス）



1年生で職業調べ、2年生で地元の企業や福祉施設等で職場体験を3日間行っていますが、これらの活動の前に、1年生では自分達で地域の資源を活用してできる事業アイデアの提案活動をし、2年生では地元で活躍される起業家の方のお話を聞くことで、企業に就職するだけでなく、自ら仕事を創る起業という働き方があることを知り、多様な職業観を培うとともに、地域活性化において起業家が果たす役割についても理解する時間を設けました。授業の後



は、全員が「仕事とは雇ってもらっただけでなく、自分で作っていくこともできると理解できた」「働くやりがいや大変さが理解できた」と回答し、将来の進路を考えるうえでも役立っています。

## ➤ グローバル・エンタプライズ・チャレンジ (Global Enterprise Challenge )2016

### ➤ インターナショナル・サイエンス・エンタプライズ・チャレンジ(International Science Enterprise Challenge)2016

Global Enterprise Challenge(GEC)は、若者のイノベーションへの興味を喚起するために、16歳から18歳までの青少年を対象に、2001年に始まった国際イベントです。今年は、残念ながら、GECを主催していますオーストラリアの団体の代表が急逝されたことから6月に予定されていた国際大会が開催中止となり、急遽、GECの開催予定日に別の世界大会であるISECを開催することになりました。

このような変更にも関わらず、2016年度の国内予選には、全国から33校29のチームがエントリーし、196名の高校生が参加しました。その結果、日本代表には、開成高等学校、京都市立紫野高等学校、同志社国際高等学校の3チームが選ばれ、6月11日の世界大会に挑戦しました。

世界大会では、10カ国から15チームが参加し、日本の開成高等学校が1位、同志社国際高等学校が2位と大変健闘いたしました。

参加者からは、本競技に対して高い評価を得ており、国内予選・世界大会ともにほぼ全員が学ぶことがあり良い体験になったと答え、一番楽しく・また学ぶことがあった活動が「チームで一緒に課題解決に取り組んだこと(約8割)となっております。また、参加者の回答から、「起業に興味があり、将来役立つ経験だと考えた」という参加者が昨年の倍の34%おり、競技後も「以前より自ら事業を立ち上げること(起業)に興味があり、いつか挑戦したいという気持ちが強くなった」が35%、「以前より起業や事業経営に興味を持つようになり、将来機会があれば、挑戦しても良いかなと思った」が36%と、高い数字となっていました。主催者としては、このような体験を繰り返すことで、アントレプレナーシップを持った若者が多く輩出されることを大いに期待している次第です。

主 催：特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター

共 催：ISEC: Surya Institute

特別協賛：京都外国語大学、株式会社大貴

協 賛：株式会社島津製作所、日東薬品工業株式会社、ニチコン株式会社、株式会社堀場製作所

後 援：経済産業省近畿経済産業局、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都府私立中学高等学校連合会、公益財団法人全国商業高等学校協会、青少年と科学の会(公益社団法人京都工業会、一般社団法人京都経済同友会、一般社団法人発明協会京都支部)、国立研究開発法人科学技術振興機構、独立行政法人国立高等専門学校機構

## 【国内予選】 3/20(日) 8:00AM-20:00PM

<課題(challenge)>高齢化・過疎化で苦しむ地方への移住者や観光客を増やす革新的な事業の提案

「Develop an innovative business model to help to increase the number of new residents and/or to boost tourism in an area suffering from depopulation due to the lack of local economic opportunities for working-age people. Your business should help to revitalize the local economy.

You will present your idea to a panel of venture funders who are particularly interested in business ideas that would utilize technology to manage the business.」

### ■入賞チーム

#### ★1位:開成高等学校 (iSekai チーム)

(田舎暮らしを体験できるバーチャル・リアリティゲームとIT企業の誘致事業)

#### ★2位:京都市立紫野高等学校

(過疎地での鬼ごっこ形式のランニングイベント事業)

#### ★2位:同志社国際高等学校

(地方の民家での宿泊を紹介するアプリの提供)



- ★Creativity 賞:開成高等学校(um,YKK チーム)  
(圧電力を利用して発電する靴を観光客に貸し出す事業)
- ★Communication 賞:宮城県仙台二華高等学校  
(起業家に地方の空き家を貸し出し、事業支援を行う)

**【世界大会】 6/11(土) 8:00AM-20:00PM**

<課題 (challenge) >グリーンハウスガスを輩出しない建物やその材料の提案  
 「To come up with an innovative building, or a product or a material for buildings which helps lower the emission of greenhouse gasses and so helps us to live and work healthier.」

■入賞チーム

- ★最優秀賞 (1位): 開成高等学校 (日本)  
(全壁が太陽光パネルのドーム状建物: 地下と屋根に水の貯水場があり、水圧で移動するエレベータを設置)
- ★優秀賞 (2位): 同志社国際高等学校 (日本)  
(瓦に代わる太陽光パネル屋根・緑化壁・漆喰内壁のある家屋)
- ★特別賞: Elite Educational Institute-Richmond (カナダ)  
(ロール式の太陽光パネル)
- SMAN 1 Tarakan 高等学校 (インドネシア)  
(人間の排泄物を利用したメタンガスで太陽光・風力発電を備えた建物)



## ▶ ソーシャルリーダー育成・交流事業：Gerakan Mari Berbagi（共に分かち合おう）プログラム」

本事業は、次世代を担う若者達が、異なる文化・価値観への理解や多様な視点を培う研修機会を通じて、分かちあいの精神を持って社会に貢献できるリーダーに成長することを目的として、インドネシアと日本の両国において2014年から実施しているものです。

2016年度は、2015年の1月からインドネシアのGMB財団にて選考・研修を経て選ばれた6名のインドネシア人研修生が、3月24日に来日し、日本人学生の家庭にホームステイしながら、各自興味・関心のある分野の企業や非営利活動法人にて3週間研修を行い、4月18日に帰国しました。その後、インドネシアのGMB財団が開催する研修生の選抜をかねた研修プログラム Youth Adventure & Youth Leaders Forum~Sharing in Diversity~ に、今年初めて日本の学生4名が参加し、現地の厳しい選考を勝ち抜いた50名の若者達との交流を通じて、多くを学んで帰国しました。帰国後は、定例会議で1カ月に2度集まり、研修準備をかねた資金調達イベントなどを実施したうえで、2017年2月25日から3月22日まで、インドネシアのバリ島のSelat村にて、一般家庭にホームステイしながら小学校・中学校・高校等の教育機関にてインターンシップに参加しました。研修中は、来日したインドネシアのGMB財団のメンバーが通訳や文化体験などあらゆる面でサポートをしてくれ、互いに刺激を受ける良き交流事業へと発展しています。

事業終了後のアンケート調査でも、研修生だけでなく研修やホームステイの受入関係者から高い評価を得ており、今後も継続していく予定をしております。

主催：特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター

共催：Gerakan Mari Berbagi 財団

助成：公益信託アジア・コミュニティ・トラスト、インドネシア青少年とスポーツ省、  
独立行政法人国際交流基金、公益財団法人双日国際交流財団、公益財団法人三菱UFJ国際財団

### 研修先

研修受入先は、各自のバックグラウンドや興味・関心を考慮して、毎年マッチングを行い決定しています。

#### 1)2016年春のインドネシア研修生のインターンシップ受入先

- ・公益財団法人京都文化コンベンションビューロー
- ・株式会社堀場製作所
- ・合同会社ゆうあんビィレッジ
- ・社会福祉法人全国手話研修センター
- ・社会福祉法人京都市聴覚言語障害者福祉協会 京都市聴覚障害者センター
- ・大阪イノベーションハブ


#### 2)2017年春の日本人研修生のインターンシップ受入先

- ・SDN 1 Duda Selat 小学校
- ・SDN 1 Duda Utara 小学校
- ・SMPN 2 Selat 中学校
- ・SMPN 3 Selat 中学校
- ・SMAN 1 Selat 高等学校
- ・SLUA Saraswati Selat 職業高等学校



## プログラム概要

2016.2.1	<p><b>2017 年研修生募集開始</b></p> <p>2017 年の派遣研修生の募集を開始し、GMB2015 期生が主体となって広報活動を行いました。</p>
2016.3.24	<p><b>インドネシア研修生来日・歓迎会</b></p> <p>早朝に関西に到着し、京都に 10 時半に到着。会場で少し休んだ後、午後から、GMB の日本チームのホストでホストファミリーと一緒に歓迎会。日本食を食べながら、自己紹介を行ったあと、週末の予定確認をして、これからお世話になる家族とともに解散！</p> 
2016.3.28 ~4.15	<p><b>インターンシップ開始</b></p> <p>各自、ホストファミリーの家から、研修先に出勤。慣れない環境に緊張しながらも、新しい出会いや学びにワクワクする貴重な経験となりました。</p>  
2016.4.2&3	<p><b>ユースリーダーシップワークショップ</b></p> <p>日本人学生と一緒に研修会。Icebreaking のゲームの後、チームで資源を増やすチャレンジを行い、一緒に夕食を料理して親交を深めました。二日目は Critical thinking の講義のあと、デザイン思考の実践ワークショップを通じて、相手の本当のニーズを知り、形にする訓練。最後に、リーダーに必要な資質について考え、みんなで GMB の歌を歌って解散！新しい学びと友人を得た 2 日間となりました。</p> 
2016.4.8-10	<p><b>文化体験・東京観光</b></p> <p>夜行バスで東京へ出発。翌日早朝に東京に到着し、湯島神社を観光。その後、GMB の創設者 Azwar Hasan 氏を出迎え、午後は北の丸公園、靖国神社、浅草を観光。男子チームはカプセルホテルに宿泊し、女子は東京にいる日本チームメンバーのアパートに宿泊。翌日は、原宿、明治神宮、表参道、渋谷、江戸東京博物館を観光。関西とは違う文化を体験しました。</p> 

2016.4.15	<p><b>インターンシップ最終日</b></p> <p>3 週間の研修も終わり。インターン生としてインドネシア人を受け入れてくれた研修先の皆様と最後の挨拶。</p> 
2016.4.16	<p><b>研修のまとめの発表／送別会</b></p> <p>研修先でお世話になった職員の方やホストファミリーを招き、日本滞在中に学んだことをまとめて各自発表。夜は GMB インドネシアチームと日本チームと一緒に作った夕飯と共に、送別会を行いました。</p> 
2016.4.18	<p><b>インドネシア研修生帰国</b></p> <p>関西国際空港からジャカルタに向けて出発（19日ジャカルタ到着）。日本の寒い気候から、インドネシアの蒸し暑い気候へ。</p>
2016.5.14,21,28	<p><b>日本の研修生候補学生のリーダーシップ研修</b></p> <p>実際に各自が取り組みたい社会問題についてのソーシャル・プロジェクトの企画書を立案。</p> 
2016.6.1～2017.2.22	<p><b>日本の研修生候補学生の研修&amp;定例会議</b></p> <p>先輩の研修生とともに、新しい研修候補生達が月に2回の定例ミーティングを行いながら、研修生独自のプロジェクトの実践や資金調達活動にも挑戦。</p>
2016.7.3	<p><b>「Youth Leader Workshop～貧困と自立に向けた事業創出」の開催</b></p> <p>学生達の企画イベントを大坂イノベーションハブと連携して開催。社会問題の現場を見て、生の声にふれるとともに、その解決に取り組む社会起業家の実践から学び、参加学生達も貧困解決の事業提案を考えるワークショップを実施しました。</p> 

**Youth Adventure Camp and Leadership Forum (インドネシア)**

インドネシアの GMB2018 年度の研修候補生 (50 名) と一緒に現地の研修に 4 名の日本人学生が参加しました。現地では、ジョグジャカルタの村でラジオ番組の取材を受けたり、前年にお世話になったホストファミリーや NGO に挨拶に行ったりした後、合宿場所でホームステイをしながら、その後のチャレンジ旅行の研修を受け、ジャカルタまで旅をしました。ジャカルタでは、様々な分野で活躍する方々の講演や現地 GMB のメンバーが主催するワークショップや NGO 視察などに参加しました。日本人チームも、マシュマロチャレンジなどのワークショップを担当し、現地学生との交流に一役買いました。

2016.8.24~9.5



**Youth Adventure Camp and Leadership Forum 報告会**

インドネシアでの研修での学びを報告する会を Impact Hub Kyoto の協力を得て開催。開発途上国での支援活動のプロからも助言を頂戴しました。

2016.9.14



**寄付金集めの資金調達活動**

研修予定先のバリ島東部の Selat 村で子どもの芸術活動を支援している Klencing Art Studio への寄付金を募るため、堀川商店街協同組合の協力を得て、ハロウィンイベントを開催しました。イベントでは、Klencing Art Studio に通う子ども達が描いた絵を使ったタンブラーを販売。

2016.10.29



**寄付金集めの資金調達と GMB の広報**

京都大学で開催された「ユース・エンタプライズ トレードフェア」に出展し、GMB の活動について発信するとともに、タンブラーを販売しました。

2016.11.27



2017.2.22	<p><b>渡航前の最後の研修</b></p> <p>1月に入ってから、模擬授業を繰り返し、最後の実践確認を行うとともに、約5万円の寄付を Klencing Art Studio に行うことができました。</p>
2017.2.25-3.22	<p><b>バリの Selat 村にて研修</b></p> <p>関空から出発した研修生4名は夕方にデンパサールに到着。インドネシアの GMB 財団のメンバーに迎えられ、各自ホストファミリーの自宅へ。</p> 
2017.2.26	<p><b>オリエンテーションとバリの伝統的な祭りに参加</b></p> <p>オリエンテーションにて GMB 財団の理事 Prabowo 氏と現地の学校やホームステイの受入の窓口になって下さった SMAN 1 高校の教頭の Nurasa 氏からバリ島生活にて気を付ける事などについて指導を受けました。その後、当日 Selat 村で開催されていた祭事 Usaba Dodol に参加するため、研修生も正装に着替え、現地の方々と一緒に寺院での儀式に行きました。</p>  
2017.2.27	<p><b>研修先へ訪問</b></p> <p>Nurasa 氏の案内で、明日から研修生がお世話になる研修先に挨拶のため訪問しました。どの学校も快く歓迎して下さいました。また、毎週金曜日の朝は、バリ島の多くの学校が国旗掲揚式を開催しており、研修生も参加しました。</p>  
2017.2.28	<p><b>研修初日</b></p> <p>学校は7時に始まり、研修生4人は、ホームステイ先の方に各自の研修先に送迎して頂き、担当の先生の指導のもと、授業に参加しました。初日ということで、小・中学校では自己紹介と日本の紹介をメインに各自授業を行い、高校で研修している2人は日本語や英語の授業に参加した後、午後に担当している環境プロジェクトと地域活性化のためのプロモーションビデオ作成のプロジェクトにて、参加生徒に活動の内容の紹介や今後の進め方について説明しました。定員15名のところになんと50名の応募者があるという人気の課外活動となりました。緊張しながらも、たくさんの人たちのサポートのおかげでなんとか初日の授業を無事に終えることが出来ました。</p> 

2017.3.1	<p><b>研修2日目</b></p> <p>全員、午前中は、各自の学校へ。午後からは、Prabowo 氏の新車・家のための安全祈願の儀式に参加しました。バリでは、新しく家電・車・家などを購入した際に、このような儀式を行うそうです。</p>  
2017.3.2&3.3	<p><b>研修3日目&amp;4日目</b></p> <p>研修生も日本とは全く違う生活環境にも少しずつ慣れ、放課後の課外活動では、日本のお手玉やラジオ体操、折り紙などを教え、現地の学生達にも喜んでもらうことができました。また、夕方は、研修生同士で集まり、ここに来て悩んでいる事、頑張りたい事、新しく学んだ事等を共有しました。</p>  
2017.3.4	<p><b>文化体験／村の若手リーダー向けの環境問題ワークショップ</b></p> <p>バリの伝統的な布であるソンケットを作っている現場に見学へ行ったり、アグン山の見える美しい景色を見に行ったり、バリ島の美しい自然や伝統工芸品について学びました。夜は研修生が、村の若者達を対象に環境問題のワークショップを行いました。</p>  
2017.3.5	<p><b>トレッキング／GMB ワークショップ</b></p> <p>朝から渡航前に寄付金を集めて贈呈した Klencing アートスクールの子供達と一緒にアグン産のふもとの美しい棚田に絵を描きに出かけました。スケッチが終わった後、研修の一環として、バリ島渡航前から子供達の書いた絵を使ったタンブラーの販売で得たお金を寄付する贈呈式を野外で行い、お礼に子ども達が描いた絵を頂きました。夜はインドネシアと日本の GMB のメンバーと一緒に、地元の若者達を招待し、GMB の活動の紹介の後、自分達が抱えている問題やそれをどう解決したらよいかなどを話し合うワークショップを行い、GMB のインドネシア人メンバーはファシリテーターとして参加しました。進路や家族のことなど、互いに抱える問題について友人たちと共有し、その解決のために前向きに活動していくことを考える良い機会となりました。</p>



**研修2週目**

2017.  
3.6-3.10



研修生2人は、新しい小学校と中学校にての研修。2週間は、インドネシアのGMBのメンバーが学校や仕事を休んで、授業に通訳として参加してくれるなど、さらに多くの方に支えてもらい、無事終わることができました。

**食事会**

2017.3.10

研修生2名が無事学校でのプロジェクトを終了したことのお祝いかねて、ジャカルタなどから来てくれていたGMBのインドネシア人メンバー達と一緒に食事会。同世代同志で、いろんなことを語り合い、互いの親交を深めました。



**文化体験**

2017.3.11

現地のGMBメンバーと共にインドネシアで一番美しい村の一つと言われているプリブラン村や有名なケチャダンスが見れるウルワトゥ寺院に行き、バリの文化に触れるとともに、とても楽しい時間を過ごしました。



**文化体験**

2017.3.12

朝はトレッキングをして Selat 村の美しい自然に触れるとともに、午後には、バージビーチと水の宮殿へ。バリに来て初めての海を体験。



<p>2017. 3.13-3.17</p>	<p><b>研修 3 週目</b></p> <p>3 週目は職業高校での研修です。日本語の授業に参加したり、日本料理（巻きずしとぜんざい）をデモンストレーションし、一緒に生徒さん達と試食会を行いました。</p> 
<p>2017.3.18</p>	<p><b>文化体験</b></p>  <p>Ubudを訪問。バリの伝統的工芸品などを見ることができました。</p>
<p>2017.3.19</p>	<p><b>研修報告会</b></p> <p>お世話になった学校の方やホストファミリーなどを招いて、研修の報告会を開催しました。</p>  
<p>2017.3.20</p>	<p><b>ホストファミリーと過ごす休暇</b></p> <p>終日、ホストファミリーと自由行動</p>
<p>2017.3.21</p>	<p><b>帰国</b></p> <p>ホストファミリーと過ごした後、食事をして夕方空港へ。深夜のフライトで翌朝関空に到着。</p>  
<p>2017.4.1</p>	<p><b>研修報告会</b></p> <p>今回の研修で得た経験や学びを仲間たちと共有するための研修会を開催。</p>  

### 3.普及促進のためのイベント・セミナーなどの企画・運営

#### ▶ ユース・エンタプライズ トレードフェア 2016

第16回「ユース・エンタプライズ トレードフェア」を11月27日に京都大学にて開催いたしました。当日は、全国各地から30チーム（小学生3チーム、中学生1チーム、大学生26チーム）が参加し、日頃取り組んでいる起業家教育の活動成果を展示販売やプレゼンテーションを通じて紹介し、互いの取り組みから学び合う場となりました。

午後14時には販売や発表を終了し、学校の枠を超えて、他の出展者とチームを組んで、新しい商品を提案するミニ・ワークショップに挑戦しました。互いに交流を深めたり、起業家の方から商品開発の面白さについてお話しをお伺いしたり、昨年は会場の制約から実現しなかった体験をすることが出来ました。また、今まで比較的好天氣に恵まれてきた活動でしたが、今年は雨に見舞われて客足が心配されましたが、地域の方や出展者の保護者などで賑わい、お陰様で盛況のうちに終了することができました。

また、例年、優れた取り組みに授与している賞では、地域の活性化に貢献したいと農産物の生産や販売、地元自慢のそばの代行販売などを行っている亀岡市西別院小学校の4年～6年生で構成された13人のNISSIカンパニーが知事賞を受賞しました。本イベントが始まってから初めての小学生チームの受賞となりました。この学校に加えて、今年は大勢の大学生に交じり、小学校から3チームが参加され、イベントを盛り立ててくれました。

実践の内容としては、地元の企業や団体と連携して地域活性化に貢献したいと始まった活動や食品開発など1年で成果が見えやすい取り組みが多くなって来ている一方で、科学技術を活用した新しい発想のモノ作りにこだわるチームが少ないことは、今後取り組みたい課題でもあります。出展した若者達が、多様な事業アイデアから学び合えるよう、参加者を広く公募・選抜していただけるような仕組みづくりを検討していく必要性を感じております。

#### ■参加者■

- 約550名(内訳: 出展者と関係者 約300名 その他来場者約250名)

#### ■広報やマスコミ取材■

- 京都市教育委員会の「みやこ子ども土曜塾」のHP掲載・情報誌「GoGo土曜塾」(9月～11月号)に掲載(京都市内の小中学生約250校と全ての保護者に13万部発行)
- 2016年11月25、26、28日 京都新聞 日刊 掲載
- 2016年11月27日 KBS京都の17:55 京都新聞ニュース放送
- イベントHPやSNS、メールマガジンにて配信(6～12月) 配信数約6000/月
- その他: 多数のメールマガジンや掲示板にても多数活動紹介

#### ■協賛■

- 寄付協賛: 有限会社アミークス、株式会社エスユーエス、株式会社エフタイム、京都信用金庫、株式会社島津製作所、株式会社ジョイフル、株式会社SCREENホールディングス、株式会社大貴、株式会社無有
- 広告協賛: 株式会社井筒八ッ橋本舗、株式会社土井志ば漬本舗、よーじやグループ
- 商品協賛: 株式会社井筒八ッ橋本舗、異能工房(コワーキングスペース)、株式会社ヴィテック エレクトロニクス、オムロンヘルスケア株式会社、株式会社如月社、よーじやグループ

#### ■後援■

経済産業省、厚生労働省、文部科学省、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、一般社団法人京都経済同友会、公益社団法人京都工業会、公益財団法人京都産業21、京都中小企業家同友会、一般社団法人京都発明協会、青少年と科学の会、京都府立高等学校PTA連合会、京都市PTA連絡協議会、京都府私立中学高等学校保護者会連合会、京都府私立中学高等学校連合会、全国中学校進路指導・キャリア教育連絡協議会、全国高等学校進路指導協議会、公益財団法人全国商業高等学校協会、日本キャリア教育学会、一般社団法人日本教育情報化振興会、日本社会科教育学会、特定非営利活動法人日本シミュレーション&ゲーミング学会



## 【活動内容】

### 10:00 開会式

主催者挨拶：市原 達朗(トレードフェア実行委員会 委員長)

開会宣言：工藤 龍廣(上龍軒 社長 共愛学園前橋国際大学2年生) \*昨年度の知事賞受賞校



### 10:15 ブース展示・プレゼンテーション開始

全国から集まった小学生～大学生のチームが、自分たちが運営する仮想企業の商品をブースにて販売。同時に事業内容のプレゼンテーションを行いました。一般の消費者の方々も来場し、各ブースを回って、取組の内容を聞いたり、実際に商品を買物したりしていただきました。

この間、審査員は、参加チームの実践を、事業内容・社会貢献度・地域との連携・展示販売や発表方法などを総合的に見て、評価しました。



## 14:30 ミニ・ワークショップ

自分の所属する学校とは違う参加者と6人のチームをつくって、新しい商品開発のチャレンジに挑戦しました。今年は、「読み終わった雑誌に新たな付加価値を付けた商品として提案せよ」でした。

40近いチームが30分という短い間で、一斉に課題解決に取り組み、アイデアを発表。アイデアの審査は、実際にユニークな生活雑貨を開発・提供してこられた協賛企業の有限会社アミークス 代表取締役の手島昭様に選んでいただき、おもちゃを提案したチームに、株式会社ヴィテック エレクトロニクスより提供いただいた英語学習のための玩具が送られました。



## 15:30 ゲスト講演「暮らしに役立つアイデア商品を提供し続けたワクワク人生」

有限会社アミークス 代表取締役 手島 昭様より、アイデア商品・雑貨を扱う株式会社コジットを創業され、ヒット商品を売り出してこられた経験についてお話いただきました。



## 16:00 審査結果の発表と表彰式

審査は、10名の審査員が、トレードフェアに出展する前のインターネットでの活動発信の内容を見ての事前評価と、トレードフェア当日の展示ブースでの販売や接客、プレゼンテーションの発表の内容についての評価を総合して審査し、優れた実践に対して賞を授与しました。



## 17:00 閉会のご挨拶

閉会にあたり、第1回目のトレードフェアからずっと参加いただいています、京都府 副知事 山下 晃正様よりご挨拶を頂きました。



●京都府知事賞 受賞チーム『NISSI カンパニー』（亀岡市立西別院小学校）

西別院町にある資源を活用して、自分達でもできる町の賑わいづくりを实践し、美しい自然のなかで育った「天日干しのお米」や無農薬野菜、ポップコーンや松ぼっくりの飾り等を販売。地域おこしに貢献していることが評価され、初めての小学校での知事賞受賞となりました。



「天日干しのコメ」と「竹炭」

●京都経済同友会賞 受賞チーム『上龍軒』（共愛学園前橋国際大学）

群馬県の郷土料理の鍋料理であるおっきりこみを小籠包のような形で商品提案して販売しました。



「小切古味」

●京都中小企業家同友会賞 受賞チーム『こっそりカンパニー』（近畿大学）

中小企業の魅力ある商品を発掘し、HP やパッケージのデザインを工夫することで多くの人に手に取ってもらえるようにと、本型のギフトボックスを開発・提案しました。中小企業支援の新しい形が評価されての受賞となりました。



「洗剤」と「ギフトボックス」

●異能工房賞 受賞チーム『黒豚屋』（共愛学園前橋国際大学）

群馬県の黒豚の認知度を高めるため黒豚をデザインしたトートバッグをデザイン。食品でないアプローチが評価されての受賞です。



「とんくろトートバック」

●青少年と科学の会 受賞チーム『CAR-PON』（愛知学院大学）

ペットボトルを加工して布にしたものに、廃棄食物の色素を利用して染める「残り染め」を行ってポンチョを開発し展示紹介。新しいものづくりの視点が評価されました。



「のこり染め」PET ポンチョ」

●スチューデント賞 受賞チーム 『Mirakuwa』（共愛学園前橋国際大学）

養蚕業で栄えた群馬県の日々の食生活に桑を取り入れる「桑食」を提案し、桑と卵で作ったお菓子「くわたま」を販売。多くの学生からの投票で人気を集めました。



「くわたま」

●ベストショップ賞 受賞チーム『ハッピーハーモニー』（立命館小学校）

学校のある北大路地域について知ってもらうための「かるた」や、京野菜を広めるための野菜のキャラクターシールや歌のCD、野菜を入れる新聞紙の袋などを紹介。一般の来場者に一番人気の店となりました。



「オリジナル CD」と「かるた」

●特別賞 受賞チーム『rilaQ』（同志社女子大学）

京田辺市の美味しい玉露と若者に人気の健康ドリンクであるスムージーを掛け合わせ、玉露スムージーを提案。地元と連携した地道な活動が評価されました。



「玉露スムージー」

●特別賞 受賞チーム『ミラフル』（共愛学園前橋国際大学）

群馬県館林市で栽培され始めた栄養価の高いポイセンベリーを使用した商品を提案し、そのユニークさや地道な活動努力が認められての受賞です。



「ポイセンベリー甘酒」

## 4. 起業や事業運営に関わる研修やコンサルティング事業

### ●日本青年会議所北陸信越地区福井ブロック協議会 会員対象ワークショップ

福井ブロック協議会「ブロックアカデミー2016～アントレプレナーシップで未来を切り拓く～」にて、『アントレプレナーシップ』をテーマに講演。その後起業家精神を社会貢献の観点から考え、新たな事業展開についてワークショップを行いました。

開催日：平成 28 年 4 月 9 日(土)  
会 場：敦賀市プラザ萬象

### ●平成 28 年度京都府キャリア教育推進協議会

京都府総合教育センターで開催された平成 28 年度京都府キャリア教育推進協議会にて「起業教育の意義と必要性について」講演しました。

開催日：平成 28 年 6 月 20 日(月) 13:30～16:30  
会 場：京都府総合教育センター

### ●Youth Leader Workshop～あなたの一歩が社会を変える！

社会問題の現場を見て、生の声にふれるとともに、その解決に取り組む社会起業家の実践から学び、持続可能な社会事業に不可欠な要素を理解する目的で、ソーシャルリーダー育成・交流事業の研修の一環で実施しました。

開催日：平成 28 年 7 月 3 日(日) 9:00-20:00  
場 所：大坂イノベーションハブ  
対 象：社会問題に関心がある大学・大学院生 (18-25 歳)

### ●京都市教育委員会「生き方探究・キャリア教育」研究会 夏季研修

京都市の小学校・中学校の教員の方々を対象にした起業家教育の研修会を京都市立洛央小学校で開催された京都市教育委員会「生き方探究・キャリア教育」研究会の夏季研修で「起業家教育の視点を取り入れたキャリア教育実践」として、導入講義とワークショップを行いました。

開催日：平成 28 年 8 月 2 日(火) 13:30～15:00  
会 場：京都市立洛央小学校

### ●京都市立修学院中学校 夏季研修

開催日：平成 28 年 8 月 18 日(木) 9:30～10:30  
会 場：京都市立修学院中学校

### ●美馬市中高生対象起業家教育ワークショップ

徳島県美馬市中・高校生対象に起業家教育のワークショップを行いました。

開催日：平成 28 年 11 月 6 日(日) 13:00～16:00  
会 場：穴吹農村環境改善センター

## ●白鷺教育会明石支部の教育講演会

明石市の小・中学校の校長先生やそのOBが所属されている白鷺教育会明石支部の教育講演会にて「キャリア教育でのアントレプレナーシップ教育の必要性」と題して講演しました。

開催日：平成28年12月3日(土)  
会 場：明石市産業交流センター

## 5. その他

---

### ●公的な委員等

- ・ 京都府地域創生推進会議委員
- ・ 京都府府民力推進会議委員
- ・ 京都府雇用創出・就業支援計画推進会議委員
- ・ 京都府障害者雇用促進会議委員
- ・ 京都府工賃向上計画検討委員

### ■□2016 年度メディア掲載等-----

当センター支援している活動が以下のマスメディアで紹介されました。

- ・ 2016年11月28日 京都新聞  
「未来の起業家 発想光る 左京で「開発商品」見本市 玉露スムージー 天日干し」
- ・ 2016年11月27日 KBS 京都テレビ  
「京都新聞ニュース枠にて放送」
- ・ 2016年11月26日 京都新聞  
「生徒、学生が商品開発 取り組み紹介、販売も」
- ・ 2016年11月25日 京都新聞  
「育てた農産物買ってネ 亀岡・西別院小 27日、京大見本市参加」
- ・ 2016年11月5日 洛南タイムス  
「京田辺の魅力つめこんで 駅ナカでPR 動画放映 同志社女子大生が制作」
- ・ 2016年11月4日 洛南タイムス  
「『よつ葉カフェ』で限定販売 京田辺玉露のスムージー「Smootea」」
- ・ 2016年9月9日 洛南タイムス  
「『Smootea』を開発 同志社女子大生 お茶で一休みを」

## ＜協賛・助成団体＞

 株式会社 <b>大貴</b>	株式会社 <b>無有</b>
 <b>SHIMADZU</b> Excellence in Science	 <b>Connect Dot</b>
 <b>雑貨王国</b> ZAKKA Kingdom	 <b>SUS</b>
 <b>f-time</b> エフタイム	 <b>京都信用金庫</b> 地域とともに コミュニティバンク
 <b>Joyfull</b> Restaurant	 <b>京都外国語大学</b> Kyoto University of Foreign Studies
 <b>日東薬品工業株式会社</b> NITTO PHARMACEUTICAL INDUSTRIES, LTD.	 <b>nichicon</b>
 <b>HORIBA</b> Explore the future	 <b>SCREEN</b>
 <b>Nidec</b> 日本電産株式会社	 <b>ACT</b>
 <b>sojitz</b>	公益財団法人 <b>三菱UFJ国際財団</b>

## ＜その他の協賛団体＞

株式会社井筒八ツ橋本舗、株式会社土井志ば漬本舗、よーじやグループ、異能工房、オムロンヘルスケア株式会社、株式会社如月社（京都シネマ）、Vtech（株式会社ヴィテック エレクトロニクス）

## ＜会員・賛助会員＞

青山和典、浅野令子、石塚実、岩田晋一、大口達夫、大野恭介、岡村充泰、黒川清、黒澤敏朗、河野登夫、酒井朋久、澤田有紀、首藤晴美、鈴木三朗、谷孝大、角田隆太郎、中澤弘、西岡正子、橋本徳子、濱野康子、程近智、真庭功、池田彩乃、井谷千英、エリック ブレイ、大平亮佑、小野寺司宏、川井国孝、木内 依子、木村千佳子、佐竹宏枝、佐藤久代、佐藤政史、志賀都子、Jim Wagner、下村委津子、神野透、杉山 公律、高橋信二、津崎桂子、中塚祐起、中西礼皇、中根敏雄、西田喜久夫、原田利枝、平田三樹子、福田 貴子、文能照之、堀田芳子、松田稔樹、水谷修、村上富美、森義晴、山崎真嗣、横井和彦、吉田真人、和田多司子

## ＜ボランティアスタッフの皆様＞

首藤晴美、土井善子、松田直子、太田孝志、重村瑞穂、田辺 直子、宮脇 裕、小林章一、田中絵里加、濱野康子、藤原未来、宿利原拓也、小森菜耶、荻原誠也、福田貴子、山口裕子、鶴飼宏成、藤井清澄、原康子、吉川正晃、柴田勉、河上伸之輔、角田 隆太郎、Gordon McVie、ブレイ エリック、杉山佳代子



## 2016 年度 決算報告

## Financial Report

## 平成 28 年度「特定非営利活動に係る事業」活動計算書

自 平成 28 年 4 月 1 日 至 平成 29 年 3 月 31 日

(単位：円)

		金額	
経常収益			
1.	受取会費		
	正会員受取会費	349,000	
	賛助会員受取会費	66,000	415,000
2.	受取寄附金		
	受取寄付金	2,431,336	2,431,336
3.	受取助成金等		
	受取助成金	1,900,000	1,900,000
4.	事業収益		
	教育教材開発・導入支援事業収益	3,763,020	
	普及促進事業収益	893,102	
	研修・講座事業収益	635,200	
	その他	95,698	5,387,020
5.	その他収益		
	受取利息	208	208
経常収益計			10,133,564
経常費用			
1.	事業費		
(1)	人件費	6,115,380	
(2)	その他経費	2,646,917	
	事業費計		8,762,297
2.	管理費		
	人件費	612,547	
(1)	その他経費	1,022,155	
	管理費計		1,634,702
経常費用計			10,396,999
当期経常増減額			-263,435
経常外収益			0
経常外費用			0
経常外費用計			
	税引前当期正味財産増減額		-263,435
	法人税、住民税及び事業税		70,000
	当期正味財産増減額		-333,435
	前期繰越正味財産額		19,708,843
	次期繰越正味財産額		19,375,408

## 平成 28 年度「特定非営利活動に係る事業」貸借対照表

平成 29 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	94,730	
普通預金	23,130,580	
立替金	4,291	
未収入金	1,144,900	
流動資産合計		24,374,501
2 固定資産		
保証金(敷金)	500,000	
固定資産合計		500,000
資産合計		24,874,501
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	1,499,093	
流動負債合計		1,499,093
2 固定負債		
退職給与引当金	4,000,000	
固定負債合計		4,000,000
負債合計		5,499,093
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		19,708,843
当期正味財産増加額		
当期収支差額	(333,435)	(333,435)
正味財産合計		19,375,408
負債及び正味財産合計		24,874,501

## 平成 27 年度「特定非営利活動に係る事業」財産目録

平成 28 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科 目 ・ 摘 要		金 額	
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産			
現金	現金手元有高	94,730	
普通預金	京都銀行西五条企業会館支店	3,457,175	
	京都中央信用金庫西大路五条支店	19,650,097	
	ゆうちょ銀行(当座預金)	23,308	
立替金		4,291	
未収入金		1,144,900	
	流動資産合計		24,374,501
2 固定資産			
	保証金(船越メディカルビル事務所保証金)	500,000	
	京都市中京区両替町通丸太町南入西方寺町160-2		
	船越メディカルビル 3F		
	固定資産合計		500,000
	資産合計		24,874,501
<b>II 負債の部</b>			
1 流動負債			
	未払金	1,499,093	
	流動負債合計		1,499,093
2 固定負債			
	退職給与引当金	4,000,000	
	固定負債合計		4,000,000
	負債合計		5,499,093
	正味財産合計		19,375,408